

# 平成26年度 学校自己評価システムシート (県立川島ひばりが丘特別支援学校)

## W52

目指す学校像	将来の自立や社会参加に向け、心豊かに、たくましく生きる力を身につけることのできる学校 保護者や地域、関係諸機関から信頼され、誇れる学校
--------	--

重点目標	1 児童生徒一人ひとりの可能性と力を最大限引き出す指導体制づくり。 2 センターの機能の更なる充実と、地域に開かれ地元の学校として親しまれる学校づくり。 3 年間を通して児童生徒が健康で安全に学習できる環境づくり。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	4名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>○授業改善では、オーダー方式、授業者支援会議の活用が定着してきた。特に経験者には有意義であった。今後は重度化・多様化する児童生徒への教育課程の在り方や指導方法について検討していく必要がある。また、医療型入所施設の入所者増加に伴う訪問教育対象児に対し、チームで取り組む体制を整備する必要がある。</p> <p>○昨年度、二学期制移行に関する課題をあげ、討議した。来年度実施に向け、教職員の具体的なイメージ化を図り、課題解決をさらに進めていく必要がある。</p>	<p>○児童生徒の変容、成長を実感できる授業づくり</p> <p>○平成27年度二学期制導入に向けた教育課程、行事、評価等の整備</p>	<p>①オーダー方式の授業研究の継続と授業研究会(年2回)及び実践報告会(3月)、初任者研修、年次研修の研究授業、研究協議を実施する。(通年)</p> <p>②PCやタブレット端末等によるICTの活用や学校図書館の整備・充実、研究授業の指導案及び記録映像等のデータベース化に取り組む。(通年)</p> <p>③就学・転学に関して、関係機関等(市町教委、施設、医療等)とのネットワークを構築し、迅速な事務手続きと対応を進める。(適宜)</p>	<p>①授業研究会、実践報告会、対象者の研究授業、研究協議が計画的に実施できたか。(年14回)</p> <p>②ICTの活用、学校図書館の整備、データベース化が進み、活用できたか。</p> <p>③関係機関と連携し、適正な就学支援の実施及び迅速な受け入れ対応、指導の実施ができたか。</p>	<p>・初任者研修、年次研修等の研究授業、研究協議はほぼ計画的に進めることができた。研究協議直前のDVD視聴は効果的であった。</p> <p>・タブレット端末、スイッチ教材の活用が増えている。図書検索システムが完成、運用された。</p> <p>・市町教委とのネットワーク会議を2回実施し、就学、支援籍について理解を深めることができた。</p>	B	<p>・オーダーについての検討やオーダーがその後の授業にどう生かされているかを検証することが必要である。研究授業を互いに見合える体制の工夫が必要である。</p> <p>・さらなるICTへ活用の理解、推進が必要である。学校図書館の組織的運営について整備する必要がある。</p> <p>・就学において市町教委との連携については早期から情報交換をしていく必要がある。</p>
2	<p>○支援籍学習へのさらなる理解推進のため関係教委と連携を深める必要がある。</p> <p>○学校開放事業、支援籍学習、交流学习等での本校への理解は進展している一方で、施設開放事業以外での地域住民の来校は少ない。広く県民に対しての情報発信の方法の充実・強化に努める必要がある。</p>	<p>○地域に密着したセンター的機能の充実と支援籍学習の拡充充実</p> <p>○学校及び特別支援教育の情報発信と充実</p>	<p>①川島町教委と連携した巡回指導、町内小・中の教職員の研修を実施する。</p> <p>②学区の小中高の教職員に対し、本校主催の公開講座等(7・12月)への参加を周知する。</p> <p>③リーフレットを用いた支援籍学習の啓発と保護者の意向を汲み取った事前事後の打ち合わせを進める。</p>	<p>①巡回指導及び研修会が計画的に実施できたか。</p> <p>②本校以外の教職員、地域住民の参加数に増加がみられたか。</p> <p>③本人、保護者の意向に沿った支援籍学習が進められたか。</p>	<p>・川島町の全小中学校の要請に応じて巡回相談及び支援することができた。</p> <p>・公開講座は1、2回合わせて約50名、2月の3回目には約105名の外部からの参加があった。</p> <p>・支援籍希望者38ケースについて実施できた。またリーフレットが完成し、次年度に向け活用する。</p>	A	<p>・川島町教委との連携については継続していく。</p> <p>・公開講座については、本校職員のニーズの他、小中高の教職員等のニーズを考慮した内容を考えていく必要がある。</p> <p>・リーフレットを活用した啓発を進めていく。</p>
3	<p>○いじめ防止対策、安全な学校づくりのため、事故防止に向けて、引継ぎや情報共有、研修会等を実施し、チームで取り組む必要がある。</p> <p>○防火・防災等の緊急時の危機管理体制の整備・充実については、今後も多方面と連携し、改善・推進していく必要がある。</p>	<p>○健康で安全・安心に学習できる指導体制の確立と環境の整備</p>	<p>①保健研修会、児童生徒理解研修会、情報交換会等を実施し、全教職員の共通理解のもと、医療的ケアを実施する。(通年)</p> <p>②いじめ防止のための研修会(教職員・児童生徒・保護者)と児童生徒への指導について年間計画を作成(5月中旬まで)し、実施する。</p> <p>③緊急時・災害時に備え、複数の連絡手段の活用を拡大する。(通年)</p>	<p>①研修会、情報交換会の充実及び担当教員の育成が図られたか。</p> <p>②年間計画を作成し、アンケート等を活用し、取組に成果がみられたか。</p> <p>③必要性を周知でき、利用可能者の登録割合が90%を超えたか。</p>	<p>・新規の担当教員は14件の育成となり、昨年より7件の増であった。研修会、情報交換会等も計画的に実施できた。</p> <p>・アンケートではいじめの実態はなかった。</p> <p>・複数の連絡手段が整い、まちcomiメールでは90%を超える登録となった。</p>	B	<p>・新規担当教員の育成は、県の研修会終了後からの実地研修となるので、担当教員の実施に至るまでに時間がかかり、年度内の実施期間が短い。育成方法の工夫が課題である。</p> <p>・いじめに限らず、虐待等、人権意識の醸成につながる取組が継続的に実施される必要がある。</p> <p>・災害時に備え、メールが受信できない家庭への連絡方法を工夫し、連絡網、メールの他、HPでの伝言、災害用伝言板等の活用も検討課題である。</p>

学校関係者評価
実施日 平成27年2月18日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>○授業研究等が計画的に実施されたのは評価できる。研究授業やオーダー方式が、その後、先生方の授業づくりにつながり、児童生徒の変容に成果が表れたかを研究する工夫が大切である。</p> <p>○オーダー方式の授業研究等、内容によっては教職員だけでなく、授業参観等の機会で保護者から改善方法の意見を聞くこともよいのではないかと感じる。</p> <p>○ICTの活用においてスイッチ教材やタブレットの活用は有効なので、是非進めてもらいたい。</p> <p>○学校図書館の充実と検索システムの活用も次年度に引き継いでほしい。</p> <p>○重度の子どもたちになると、変容がすぐに表れないことが多い。2学期制のような長いスパンで適切な指導と評価の体制を確立していくことは意味のあるものにとらえている。</p> <p>○施設事業者にとって第三者とのかかわりは重要であり、センター的機能は必要なシステムと実感している。</p> <p>○巡回相談は地域の小学校にとって非常に助かっている。支援籍学習において地域的な交流が生まれた。</p> <p>○スクールマスコット「ひばりん」を活用して学校や教育活動をPRにいくことは有効な手段であると思う。一方ではまだまだ特別支援学校の認知は少ない。今後もPRしていくことは必要である。</p> <p>○HPを見るともう少し画像(写真)のアップを頻繁に更新すると伝わると思う。</p> <p>○安心安全のために引き続き、防災訓練や緊急時対応訓練と教員のスキルアップのための研修会を実施してほしい。</p> <p>○いじめや体罰が無いことはよいが、思わぬところで事故が起きるのが学校でもある。事故が起きた時の対応が重要なので、職員のスキルアップを図ってほしい。</p> <p>○学校メールは重要であり、活用を進めていく必要がある。</p>